

歌舞伎偶感

内藤克彦

私がはじめて歌舞伎なるものを見たのは、東京での学生生活二年目の昭和二十六年秋のころであった。新劇の方は、それよりも少し前に、俳優志望の友人に誘われて文学座や俳優座の公演を見に出かけたものであったが、歌舞伎を見るきっかけとなったのは、戦後ようやく諸外国との国交が再開されて、その第一陣としてスペインへ赴任することになった外交官の叔父の出発直前の歌舞伎座行きに同行したことであった。

主要な出し物は、『仮名手本忠臣蔵』^(*)であったように記憶する。幕が開いた途端にまず私の目を引いたのは、明るく広い舞台の華やいだ美しさであった。劇の進行の途中には、予期しないところではとすような仕掛けも用意されていて、観る者をあきさせない。文字通り歌と舞と技とが調和して、観客を洗練された芸術的遊びの世界へ誘いこんでゆく。ここでは、繊細な人情の機微が、磨き上げられた演技を通して直観化される。殺伐な斬り合いそのものでさえも、写実からは程遠い舞踏的な型によって表現される。西欧風の演劇においては筋が最重要視され、それが発端から転回点を経て終局へと各場面の緊密なつながりにおいて展開するように仕組まれるのに比べれば、歌舞伎においては、むしろ各場面は叙事詩的なゆるい接続の構成をとっているように見受けられる。立役者が大見得を切ったり、回り舞台が使用され得るのも、場面場面を楽しむことが基本となっているからのことだろう。実際、歌舞伎には、西欧の伝統的な演劇にはない構成要素が幾つも含まれている。例えば、プレヒトが、西欧の伝統

的な「イリュージョン」演劇を改革しようとして提案した「異化効果」の契機は、そのイデオロギー的な意味を別とすれば、歌舞伎においては至るところに見出だすことができるのである。ともあれ、そのような歌舞伎の特質として、特に私が強調したいのは、その飽くなき様式美への執念である。一つ一つの所作がそのまま絵になると言ってもいいほどに様式化が徹底している。女形の存在が様式化の傾向を一層強めたのもあろう。あの独特の抑揚のセリフ回しやさりげない所作の中にこめられた含蓄の豊かさは無類である。

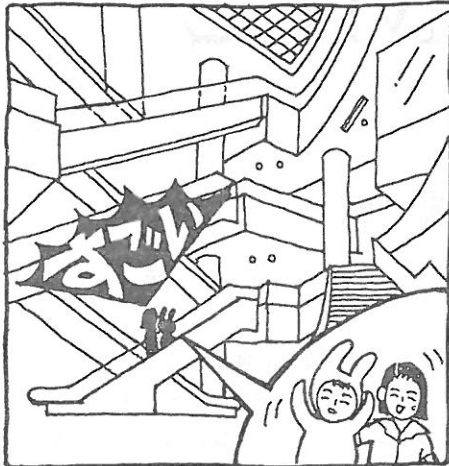
歌舞伎にしばしば見られる「義理人情」のテーマは、現代にはもはや通用し得ない過去の遺物でしかないという人もあろう。なるほど、それが個々の人間の人格的尊厳を無視したしがらみとしての閉塞的な「義理人情」である限りは、その通りである。とはいえ、例えば、主家の幼い世継ぎの身代わりとなって死んだ我が子をかき抱いて、その健気な忠義心をたたえつつ慟哭する母親の姿をまのあたりにして、同情と感動に胸を熱くしない者があるだろうか。たとえいかほど歴史的には制約されていようとも、限りある生命の中で、全身全霊をもって、力一杯、精一杯生きた人間の悲劇性そのものは、人間であるというその一点において、共感と感動の普遍的対象たりうる資格を十分に持っている。歌舞伎の主人公たちの多くは、そのような人間たちであったと私は思う。

(*)：請求番号 081K/244-1/v.0-29)

(Katsuhiko NAITO: 文学部教授)

〈文庫訪問〉

愛知県文化情報センター アートライブラリー



“芸術の秋”にふさわしく、今回は愛知芸術文化センターの1階、愛知県文化情報センター、アートライブラリーを訪問した。

一步館内に足を踏み入れると、そこには静肅さが漂い、とても我々の図書館とは比べものにならない程の立派な施設、環境にため息をつく私たち2人。

早速地下にある事務室でアートライブラリーの主査神谷さんにお話を伺い、書庫内や開架書庫を見せていただいた。



昨年、平成4年10月30日にオープンしたばかりのまだ新しいアートライブラリー。ここは、美術、音楽、演劇などに関する図書や雑誌、展示会カタログ、楽譜などの他、クラシック音楽を中心としたCD、LPなどを蔵する専門図書館である。

利用その1

開館時間：火～金 10:00～19:00

土、日、祝日 10:00～18:00

休館日：毎月曜日、毎月第3火曜日

年未年始、整理期間(年間15日以内)

現在、蔵書数は約6万7～8千点。

このうち、22,398冊はアートライブラリーの目玉、知る人ぞ知るタリカコレクションである。パリの美術商サミュエル・タリカとその息子アラン・タリカの親子が築きあげた西洋美術に関する海外の文献で、質量ともに日本では最高水準のもの。研究者にとっては涙のどるくらい素晴らしいコレクションといえるだろう。

利用その2

タリカコレクションは書庫内にある。

通常書庫内資料はカウンターで出納依頼をするのだが、是非ともこのコレクションを直接見てみたいという方はカウンターに申し出て手続きすれば、入庫も可能。

(当日券のようなものを発行してもらえる。)

他にも書庫内には雑誌のバックナンバー、展示会カタログ、楽譜、レコードなどがある。そして、タリカコレクションもさることながら、書庫内で私たちの目を驚かせてくれたのが、貴重品庫。外側の扉の立派さにも

《文庫訪問》

目を見張るものがあったが、扉を開けたあとに、どおんと出てきた鉄格子の扉…、二重扉の頑丈さ・立派さに「貴重品庫はこうでなくっちゃね」とまたまた我々の図書館と比較してしまった…。開架書架には、美術、音楽、演劇などに関する図書と雑誌約200点の最新号、CDなどが並んでいる。

資料検索コーナーにはアートライブラリー所蔵の資料を探ることができるコンピュータ端末が置かれており、これは画面タッチ方式で(もちろんキーボードからの入力も出来るが)非常に操作はラク。画面も見やすく、指でポンポンと触るだけでO.K。ここで検索した資料が書庫のものだったら「資料請求票」を印刷してカウンターで請求すれば出納してもらえようになっている。CDやレコードはオーディオコーナーのブースを使ってゆっくり楽しめばよいわけだ。

貸出できる資料は図書と楽譜。利用カードが必要になるので、氏名と住所を確認できるものを持参すれば、あっという間に登録してもらえ、利用カードを発行してもらえる。このカード、登録日より3年間有効のもの。ちゃっかり私たち2人も作ってもらった。

利用その3

貸出冊数:1人3冊以内

貸出期間:15日間

コピー:1枚20円(複写申込書に記入のこと)

芸術文化センター内には、文化情報センターの他にも美術館や芸術劇場があり、アートライブラリーではそれら催し物に沿った図書の展示も随時おこなっており、これも見逃せないものといえる。

美術館、芸術劇場、文化情報センターの総合的な複合文化施設の連携をはかり、その調整機能の役割を果たす文化情報センターに、今後も芸術文化全般にわたる普及、活動の支援をおこなってほしいと願いつつ、アートライブラリーをあとにした私たちであった。

利用その4 交通案内

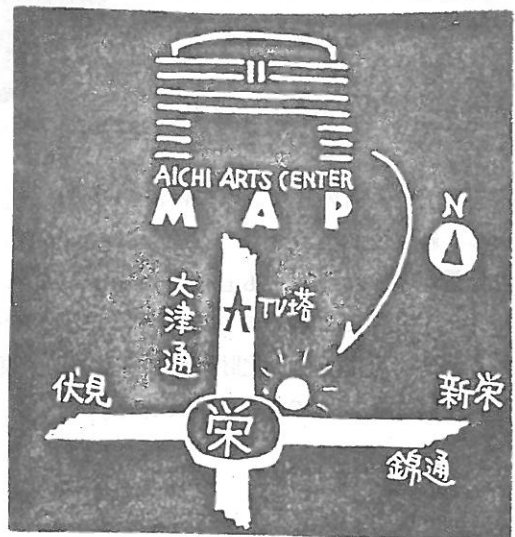
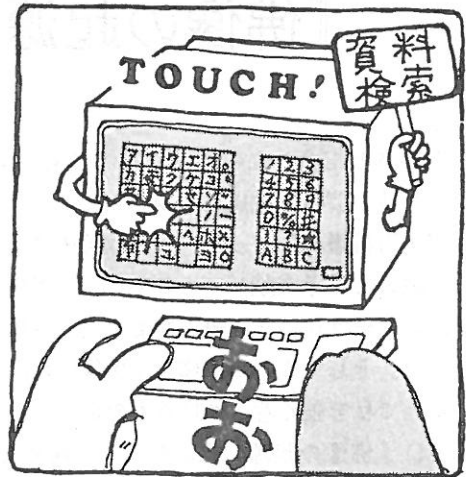
地下鉄東山線・名城線[栄]駅下車、

名鉄瀬戸線[栄町]駅下車、

地下鉄4番出口より徒歩3分。

市バス[栄]停留所下車、徒歩5分。

是非ともこの秋はアートライブラリーで「芸術」を堪能してほしい。



(閲覧係:後藤真貴子・受入係:山口ユキ子)

《資料紹介》

『佛像の起源』

高田修著. 東京: 岩波書店, 1967

[請求番号 702/1006]

この本と出会ったのは学生時代に文化交流史か何かのレポートの材料集めをしているときだった。当時、芸術文化史上に現れたモチーフに興味のあった私はある百科事典(たしか『ブリタニカ国際大百科事典』だった)の仏教美術に関する記述を読み進むうちにガンダーラ仏の写真に出くわし、続いて参考文献リストの中にこの本のタイトルを発見したのだった。ヘレニズム時代の落とし子ガンダーラ仏。その優美な姿は高校時代に世界史の教科書の写真で初めて見て以来、私を魅了してきた。そしてこの高田修の『佛像の起源』はガンダーラ仏を仏像成立史の中で大きく取り上げている点で私を強く惹きつけるものがあった。私は一も二もなくガンダーラ仏をレポートのテーマに据え、『佛像の起源』を読むことに決めたのであった。

われわれ日本人は日頃仏教寺院に仏像はつきものという感覚で仏像をとらえている。しかし、そもそもインドでの仏教成立当初、仏像は存在しなかったと言われる。ところが、時を経るにつれて仏教の礼拝の対象物として仏像が出現してきた。したがって仏像の出現は仏教の成立の根幹にも係わる重要な問題であると言える。一体なぜ仏像は出現しなければならなかったのか。またそれはどのようにして出現してきたのか。このような雄大なスケールの問題に



佛頭 サリ・パーロール出土 ベンジャール博物館

☑ 真正面から取り組み格闘した労作がここに紹介する『佛像の起源』である。

まず本書は仏像の起源に関する伝承の検討から始まり、仏教成立当初は仏像が存在しなかったことが確認される。続いてインドにおける仏像の2大潮流であるガンダーラ仏とマトゥラー仏の成立・発展の軌跡がその源となったガンダーラ美術とマトゥラー美術の展開を踏まえながら詳細に明らかにされていく。一体、仏像の起源はガンダーラなのかマトゥラーなのか。このロマンあふれる謎解きの結末は読んでからのお楽しみという

ことで、読者のみなさんにはがっちりした手応えのある本書をまずひといてほしい。図版を多用し、総ページ500ページを優に超える(仏像の起源という大きなテーマを支えるにはそれだけの分量が必要だったとも言える)本書はまぎれもなく第1級の学術書であるが、仏教史、インド文化史、宗教などに興味のある向きにとどまらず、広く一般にもお薦めしたい。

著者は、東京国立文化財研究所美術部長、東北大学教授などを歴任、一貫して仏教美術を専攻分野として研究を続けてきた人物である。

(参考係: 紅露 剛)

〈資料紹介〉

「初めての富士山」 大山行男

富士山には多くの言葉はいらない。
雲の上の富士山。
夕焼けと富士山。
月と、星と、湖と、
1ページ毎、何かを語っている。

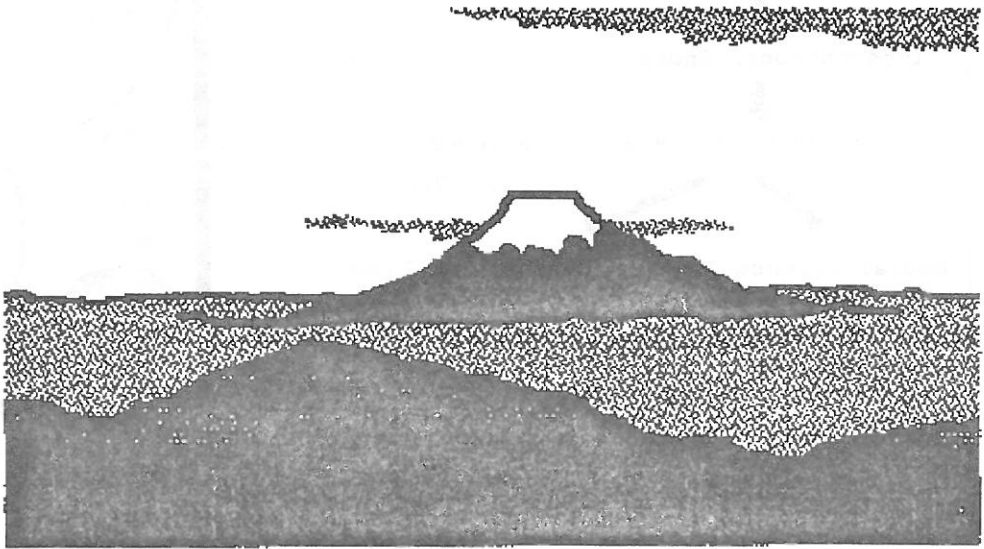


イラスト ㊦

「初めての富士山」 大山行男撮影 小学館 1992年 [請求番号 748K/236]

(閲覧係：石井知好)

〈資料&CD-ROM紹介〉

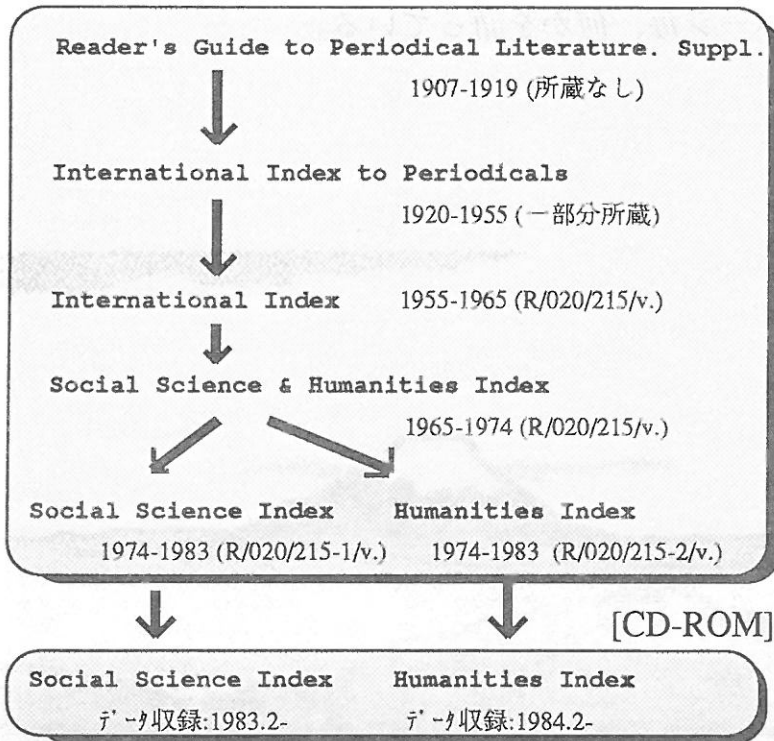
Social Science Index Humanities Index

Social Science Index は社会科学、Humanities Index は人文科学の雑誌論文の索引です。元々は、Reader's Guide to Periodical Literature の補遺として1907年から出版されていましたが、現在では下図のように書名は変遷しています。

冊子体は著者と件名語（テーマを表す言葉）がアルファベット順に混配されていますので多少注意が必要です。また、収録雑誌や雑誌の略語名のリストが巻頭にあります。

CD-ROMは館報16号で紹介いたしました"MLA International Bibliography"と使用方法は同じです。"MLA" "Social..." "Human..." の3枚は、出版者が同じため検索画面も同一で、検索途中でも直接他のCD-ROMに切替えることが可能です。ですから色々な分野にわたる検索語から探す場合など大変便利になったといえます。

[冊子体]



"Social..."で社会科学系、"Human..."で人文科学系、"MLA"で言語学系と3つの分野についてはCD-ROMによる検索が可能になり随分便利になりました。(実際に使って頂ければお分かりになると思います) 今後も利用者の需要の多いCD-ROMの購入を検討していきますので、ご期待下さい。また、ご質問等ありましたら遠慮なくレファレンスカウンターに声を掛けて下さい。

(参考係:土屋玲)

NEW GEMMA 試作版アンケートへの御協力ありがとうございました。

デモ誌No.15(1992.10.1発行)でお知らせした通り、図書館では新図書館システムの検討を進めています。その中で現在のGEMMAに替わる新しい検索システム(NEW GEMMA)の検討を行っていますが、このほど試作版が完成し、そのお披露目と利用者の皆さんからの意見を集め参考にするために、デモンストラシヨンとアンケート調査を7/7~7/21に実施しました。

その結果がまとまりましたので、主なものを以下に掲載します。なお数字は7/21までの分、表中の割合(%)は下1桁を四捨五入してあります。

1 あなたの所属をおたずねします

| | 数 | % |
|----|-----|-----|
| 教員 | 55 | 21 |
| 学生 | 144 | 54 |
| 職員 | 67 | 25 |
| 計 | 266 | 100 |

<コメント>

定期試験中という忙しい期間にもかかわらず多くの方の参加をいただきました。強引な勧誘にいやな顔一つせずお付き合いいただいた方々、本当に御協力ありがとうございました。

2 GEMMAで不満に思っていることがあればお書きください

GEMMAに対する不満は以下の4種類に集約されました。

- ① 反応が遅い!のろま...ノロ...
- ② キーボードの入力モード設定が分からん!えいご...にほんご...えい、わからん...
- ③ 請求票を出すまでに手間がかかる。なんでこんなにめんどくさいんだあ~
- ④ 古い資料が検索できない。

<コメント>

ごもっとも... 開き直るつもりは全くありませんが、予想通りの結果でした。NEW GEMMAでは特に①~③の問題点の解決を中心に検討を進めています。④については、御迷惑をおかけしていますが、全蔵書の選及入力*完成するまでは、カード* 目録を併用してください。 いったいつまでかかることやら...

3 NEW GEMMA試作版「検索画面」での絞り込み条件に過不足はありませんか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|-------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 問題ない | 216 | 81 | 40 | 73 | 123 | 85 | 53 | 79 |
| 問題がある | 29 | 11 | 11 | 20 | 8 | 6 | 10 | 15 |
| 使用しない | 7 | 3 | 0 | 0 | 6 | 4 | 1 | 2 |

<コメント>

検索機能の充実のため、以下の絞り込み条件を用意します。資料区分・資料媒体・言語・分類・所在など。

4 NEW GEMMA試作版「漢字変換」についてどう思いますか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|--------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 分かりやすい | 158 | 59 | 31 | 56 | 95 | 66 | 32 | 48 |
| 分かりづらい | 34 | 13 | 8 | 15 | 14 | 10 | 12 | 18 |
| 変わらない | 39 | 15 | 4 | 7 | 19 | 13 | 16 | 24 |

<コメント>

GEMMAの不満の種。せめて80%の人から支持を得られるよう、さらに検討中です。

どーすればわかりやすいんだあ〜

5 NEW GEMMA試作版「結果一覧の文献リスト」を打出す機能があれば使いますか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|-------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 使　　う | 223 | 84 | 49 | 89 | 121 | 84 | 53 | 79 |
| 使わ　ない | 25 | 9 | 3 | 6 | 11 | 8 | 11 | 16 |

<コメント>

情報のアウトプットは積極的に進めていきたいと考えています。

6 NEW GEMMA試作版「検索結果をフロッピーディスクへダウンロード」する機能があれば使いますか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 使　　う | 149 | 56 | 43 | 78 | 68 | 47 | 38 | 57 |
| 使わ　ない | 100 | 38 | 10 | 18 | 66 | 46 | 24 | 36 |

<コメント>

情報のアウトプットは積極的に進めていきたいと考えています。

7 NEW GEMMA試作版「マウスによる操作」をどう思いますか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|----------|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 問　題　な　い | 132 | 50 | 35 | 64 | 72 | 50 | 25 | 37 |
| 慣れれば問題ない | 119 | 45 | 17 | 31 | 66 | 46 | 36 | 54 |
| キーボードがよい | 4 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 5 |

<コメント>

NEW GEMMAはマウスによる操作が基本となる予定です。特に拒否反応もなく、胸をなでおろしています。

8 NEW GEMMA試作版「全般的な使い勝手」はどうですか

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|-----------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| よ　く　な　っ　た | 229 | 86 | 51 | 93 | 127 | 88 | 51 | 76 |
| 悪　く　な　っ　た | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 変　わ　ら　な　い | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| 何ともいえない | 19 | 7 | 2 | 4 | 7 | 5 | 10 | 15 |

<コメント>

試作版・データが入っていないという悪条件の中、90%近い支持を得られたことはうれしい誤算と言えるかもしれません。

なにはともあれ、よかった、よかった...

9 NEW GEMMAが利用可能な場所としてどこが望ましいですか(複数回答可)

| | 全体 | | 教員 | | 学生 | | 職員 | |
|------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 数 | % | 数 | % | 数 | % | 数 | % |
| 各閲覧室 | 222 | 84 | 44 | 80 | 121 | 84 | 57 | 85 |
| 書庫 | 105 | 40 | 36 | 66 | 35 | 24 | 34 | 51 |
| 教室 | 56 | 21 | 13 | 27 | 26 | 18 | 17 | 25 |
| 研究室 | 93 | 35 | 41 | 75 | 17 | 12 | 35 | 52 |
| 自宅 | 64 | 24 | 15 | 27 | 31 | 22 | 18 | 27 |

<コメント>

NEW GEMMAでは、利用可能場所を増やし、新たに2F・B1F閲覧室、B1F・B2Fの書庫に端末を設置する予定です。また将来的には研究室や自宅からの接続も考えたいと思います。

10画面のレイアウト、ボタンの表示は分かりやすいですか・各画面の表示項目について

これらの質問を各画面単位で設定しました。その結果すべての画面で「問題ない」との回答が80%を超えました。

11 NEW GEMMA試作版の評価を自由にお書きください

主な回答は以下の通りでした。

"良くなったこと"

① 操作性が良くなった。

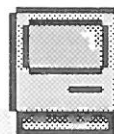
操作手順が明瞭になった、画面数・検索工程の軽減された、結果一覧と所在情報の同時に見られる、マウスによる操作は良い、検索結果の履歴の使用できる、絞り込み条件の増加など。

② ヘルプ画面がついた。

③ 画面が見やすくなった。

"悪くなったこと"

① 字が小さい。



"望むこと"

① 設置台数を多く、一日も早い設置。

② より早いレスポンス。

その後の展開

アンケートで出された数々の意見に検討を加え、実現可能と考えられるものに関してはレスポンスに影響を及ぼさない範囲で採用していきたいと考えています。また、アンケート結果より、「NEW GEMMA 試作版は高い評価を得た」と判断し、それらを含めた形で10月にはNEW GEMMAの仕様を決定したいと考えています。

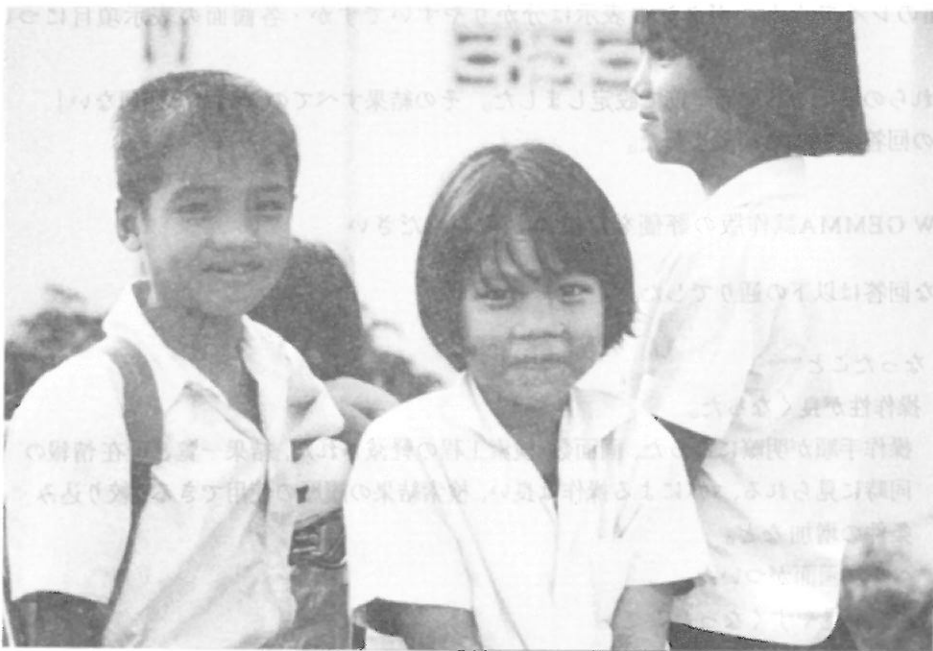
(システム係:三谷靖司)

〈特集 秋の展示会〉

その1

東南アジアの子供たち展

— 助け合い、理解しあうために —



EXHIBITION OF SOUTHEAST ASIA

1993年10月1日(金)～16日(土)

開催時間=月・火・木・金 9:00～20:00
水 9:00～18:30
土 9:00～18:00

休館日 =日・祝休日

場 所 =南山大学図書館1F ブラウジングコーナー

協 力 =C.A.N.Help Thailand
アジア交流会

〈特集 秋の展示会〉

東南アジアの子供たち展 —助け合い、理解しあうために—

図書館の秋の展示会「東南アジアの子供たち」は、このテーマに関わるボランティア活動に参加している学生・院生の提案をうけて企画し、その協力を得て実現したものである。

情報が瞬時にして地球をめぐる時代にありながら、われわれが東南アジアに暮らす人々のありのままの姿を知る機会は意外に乏しくはないか。それでもその地域には、その人生において人間の尊厳を実現するには余りにも困難な条件のもとに生活する人々が多く存在することは知っていよう。とりわけ教育の機会に恵まれないばかりか、日々飢餓にさえ苦しむ子供たちの存在は、同時代に生きるわれわれがそれぞれの責任において課題として受けとめねばならない。この展示がそれを援けることを期待する。

以下はその課題に現に取り組みつつある人々から寄せられた報告と呼びかけを編集したものである。

この度、南山大学図書館に協力し、「東南アジアの子供たち」展を開催することになりました。私たち、C.A.N. Help Thailandのメンバー一同とても嬉しく思っております。

皆さんの中で、あるいは皆さんのお友達の中で、どれくらいの方が東南アジアを旅行したことがありでしょうか。東南アジア、タイやフィリピンやインドネシアのお友達がいらっしゃいますか。同じアジアの一員でありながら、いったい私たちは東南アジアについて、どれくらいのことを知っているのでしょうか。

ここ南山大学では、学生、先生方、職員の方々、修道会のシスターや神父様が、それぞれの立場で、グループで、あるいは個人で、東南アジアに対するボランティア活動を続けていらっしゃいます。私たちも、それぞれの興味や時間に応じて、いろいろなことができるのではないのでしょうか。

ここではその例として、私たち、「C.A.N. Help Thailand」と「アジア交流会」の紹介をさせていただきますと思います。この展示会をきっかけに、一人でも多くの方が東南アジアの現状についての理解を深めてくださればと願っています。

C.A.N. Help Thailand [カナ] (C)、アメリカ(A)、日本(N)人によるタイの子供への援助活動が発足してから1年あまりたちました。HELPとはHealth, Education, Love, Purposeの頭文字の略であり、タイ北部の子供達に教育と給食を援助することにより、おたがいの人生に目的をもたらし、友好関係を築こう、という運動です。

タイのイーンと呼ばれる地方一帯は地質が悪く、乾季には十分な降雨に恵まれないため、植物の育成には適しません。タイでも特に貧しい所で、子供達の30%は栄養失調に苦しんでいます。学校では何とか子供達への給食を実施しようと、鶏や牛を飼い菜園を作るなど、様々な努力を重ねています。また、先生方が少ない給料からお金を出し合って、月に1、2度給食を定期的に支給している学校も珍しくありません。物価の安いこの地方では5,000円も有れば800食の給食が賄えます。私達は有志から

《特集 秋の展示会》

ご寄付をいただくほか、日本の小学校とタイの小学校に姉妹関係を築いていただき、学校単位で援助を行なっていただくこともお願いしています。現在40校にご協力いただいております、それぞれ廃品回収の収益金や、使いかけの文具を送るなど、活発な交流を行なっているようです。

また、この地方では貧困のため、中学校への進学率はわずか13%に過ぎません。しかも、学年が進むにつれ家の事情で退学する者が増えるため、中学を卒業できる割合は数%にまで下がってしまいます。ほとんどの生徒は進学したいのですが、年間約1万円の学費（授業料、制服、教科書代全てを含みます）が払えないため諦めざるをえないのです。私達はこの子供達の教育里親を募って、年間1万円の援助をお願いしています。昨年だけでも400人あまりの子供達が中学への進学を果たしました。また、学校施設の整備も今後の課題として残されています。壁や床のない教室、乾季の水不足、こういった問題を解決するには、金銭面での援助のみならず、労働力も必要とされています。

現在、南山大学の学生を中心として現地へ赴き、井戸を掘り校舎を建築することを計画しております。その方面では先達であり、多くの技術者を抱えるタイ国チュロソーン大学のボランティアサークルとの協力を目下呼びかけている最中です。学生に限らず、経験や知識あるいは労力を提供して下さる方、多くの方の参加を期待しています。

（連絡先：L棟404・英米科ハリリー・レイ教授）



アジア交流会は1986年に名古屋のトリカク神言修道会(SVD)の協力を得て、フィリピン・スタゲイアを開始しました。この研修旅行は現在までに8回行なわれ、約80名の学生が参加し、マニラのスモーキングンと呼ばれるごみの山に住んでいる人々を訪れたり、各地方(ミッドロ、レイテ、ルソン島など)で5~10日間にわたってフィリピンの人々と生活を共にしたりしました。アジア交流会はスタゲイアをサポートしたりアジアの素顔に接し、自己とアジアの関係を大切にしていこうような活動を目指しています。

今回展示しますフィリピンの子供達の写真はスタゲイアに参加した学生が撮ったものです。関心を抱かれた方はアジア交流会あるいは英文学科John Seland教授にお問い合わせください。

南山大学でもアジアからの留学生が増えています。学部や大学院では、日本人の学生といっしょに勉強をしている留学生がいますし、留学生別科では色々な国からの留学生が毎日、日本語を勉強しています。その中には、もちろん東南アジアからの留学生たちがあります。タイ、フィリピン、インドネシア、インド、パトナム、東チモールなどからの留学生です。彼らは日本語だけでなく、日本の文化、経済、教育など、さまざまなことについて勉強しています。

今年の南山祭では、私たち、C.A.N. Help Thailandとアジア交流会とLCC(学生によるボランティアグループ)が協力して、メインストリートとロウセンターに東南アジアのアクセサリーや服のお店とタイ料理のお店を出す予定です。南山大学の留学生だけでなく、名古屋大学のタイからの留学生も手伝ってくださることになっています。アジアの料理が好きだとか、タイ語やカク語が勉強してみたいとか、きっかけは何でもいいのです。出会いを大切にして、自分自身を、またお互いを育ててきた国の文化や習慣を知り、理解し、友達として助け合うことができればと思います。ご参加をお待ちしています。

〈特集 秋の展示会〉

EXHIBITION OF SOUTHEAST ASIA

From October first to the sixteenth, there will be an exhibition at the entrance to the library of pictures from Thailand and the Philippines to dramatize the work of two Nanzan campus organizations.

The first, **C.A.N. Help Thailand**, was organized by Professor Harry Wray of the Department of British and American Studies to help young students in Northeast Thailand. This is the poorest areas of Thailand, particularly hard hit by drought where many children suffer from malnutrition and often can't attend school because they lack funds for basic tuition.

Professor Wray, with the help of educators in Japan, Thailand, the Unites States and Canada, has created a nonprofit organization which enables donors to sponsor a schoolchild and help that child to receive a basic education as well as one decent meal each school day. As little as ten thousand yen can pay for most of a child's tuition, textbooks, school uniform, as well as school lunch. The donor can write to the child, providing a personal contact, and the child is encouraged to write back. Thus the child is given an opportunity to receive a basic education and a better chance at life. For more information, call Professor Wray at 836-4769 or visit his office, room 404 in the L building at Nanzan.

The second group, **ASIA KORYUKAI**, is headed by Father Seland and Professor Tsuchida, who also teach at Nanzan. It is a club that promotes interaction and understanding between Asian countries. At meetings they discuss various topics and problems in Southeast Asia. Each summer they organize a homestay visit to the Philippines for interested Nanzan students. The students stay with a Filipino family for two weeks, learning about Philippine culture and making new friends. For more information, contact Father Seland at the Logos Center (telephone 833-3110).

For those of you whose vision goes a little deeper than class-rooms and club activities, either of these groups could be a chance to get actively involved in the world and promote a little goodwill and understanding. Even a university student, with the small resources he or she has available, can make a difference.

And you just might gain a little better understanding of yourself in the process.

〈特集 秋の展示会〉

その2

<ステレオグラムの見方>

■が2つあります。両目を鼻に寄せると、その■が4つに見えるはず。そこで目をゆっくり戻していくと・・・あるところで■が3つになる!! そこがポイント!! 立体視できます。 さあ3D体験!!!



歌舞伎の歴史展

南山大学図書館

1993年11月1日(月)～13日(土)

開催時間 = 月～金 9:00～16:30(祝日開催)

土 9:00～12:00

休館日 = 日曜日

協力：文学部教授 安田文吉

〈特集 秋の展示会〉

歌舞伎の歴史

安田文吉(教授・国文学科)

〈かぶきの時代〉

慶長八(1603)年、徳川家康が江戸幕府を開き、長い戦国の時代がようやく終り、日本は太平の世を迎えた。しかし、それは一方では、織田信長や豊臣秀吉に代表されたような、戦国の自由な発想を否定するものでもあった。江戸幕府は、士農工商の堅固な身分制度を敷き、幕府に反抗するものは容赦なく処断して、体制の強化をはかった。この頃、京都を中心に「かぶき者」と呼ばれる者たちが横行した。異様な格好をして町を闊歩し、いたる所で喧嘩や乱行を繰り返す者たちだった。「かぶく」とは「傾く」であって、傍若無人に振る舞うこと、体制や規範に従わないことをいうので、「かぶき者」というのは、そうした行動をする者たち、すなわち、アウトロー、異端児のことである。体制に組込まれることを拒否し、戦国の気風に憧れる者たちの自爆的な抵抗の姿だったと言えよう。

〈かぶきの始まり〉

江戸幕府の開かれた慶長八年春、京都に出雲の「国」と名乗る巫女が上ってきて、「かぶき踊り」と呼ばれるものを興行した。これが歌舞伎の始まりである。この踊りは、『当代記』や『阿国歌舞伎草紙』などに描かれた絵によると、お国が派手な衣装を身に纏って男装をし、刀・脇差をさして登場し、女装した男が演じる茶屋の女と戯れるところを演じたものであった。お国演じる男は「かぶき者」のそれだった。「かぶき者」は権力の側には困りものであるだろうが、庶民には痛快で格好よく、人気があった。その風俗を男女が入れ替わって踊るのだから、倒錯的でエロチック、京中の評判となるのは当然だった。これより前、お国はすでに一座を組んで、京都をはじめ各地で、少女のかわゆらしさを売り物にした「ややおどり」という踊りを興行していた。この時から、新たに創始した「かぶき踊り」をレパートリーの中心に据えて、より刺激的な興行を始めたのである。さらに、『かぶき草子』によると、お国は「念仏踊り」を踊ったという。お国が念仏踊りを始めると、それに誘われて名古屋山三郎の亡霊が観客の中から登場、二人の生前の恋を語る設定であった。名古屋山三郎は、蒲生氏郷に仕えた戦国武士だったが、後に森忠政に仕え、同藩の井戸宇右衛門と刃傷沙汰を起こして殺されてしまった。美男にして武勇、「かぶき者」として名をはせた人物。お国と恋仲だった証拠は全くない。お国の「念仏踊り」も伝説に過ぎないが、山三が殺されたのは、慶長八年春、お国が「かぶき踊り」を始めた年だった。美男の「かぶき者」の死とお国の「かぶき踊り」の始め、何やら因縁めいて考えたくもなる。

〈遊女かぶき〉

お国が始めた「かぶき踊り」は、京六条三筋町の遊里の女たちに引き継がれた。遊女たちは四条河原に出て、はなやかな群舞を中心とする遊女歌舞伎を演じて、たいへんな人気を得た。「四条河原図屏風」には、この遊女歌舞伎の様が生き生きと描かれている。レビューの如く並んで踊る遊女達は、容色を競い、観る者の欲情を誘っている。この踊りの伴奏には、外来の新楽器三味線が使われ、エキゾチックで新鮮な魅力を加えた。また、業平ばりの男装の遊女が茶屋通いを演じ、それを迎える遊女が芸尽くしを見せる、という茶屋遊びも主要な演目だった。一座のスターは太夫あるいは和尚と呼ばれ、佐渡嶋とか又一といった遊女屋が歌舞伎の座を経営した。遊女歌舞伎は京ばかりでなく、江戸でも興行され、地方巡業にも出かけたが、何処でも女たちをめぐって喧嘩が絶えなかった。幕府は、風紀を乱すとしてこれをたびたび禁止したが、ついには女芸人が舞台に立つことをすべて禁止してしまった。通説では、これは寛永六(1629)年のこととされている。

〈若衆かぶき〉

女歌舞伎が禁止されると、替って人気を博したのが若衆歌舞伎であった。若衆というのは、いわゆる美少年のことで、前髪立ちの美貌の若者が、踊りや能狂言をくずしたものを演じた。少年に能や狂言・踊りなどを演じさせることは中世末期からしばしば記録に見えるが、若衆歌舞伎がもっとも盛んであったのは、女歌舞伎が姿を消してからである。「業平躍(なりひらおどり)」と呼ばれる踊り歌が代表的な演目で、男装の麗人に代って、業平のような美貌の若者が人々を惹きつけた。お国歌舞伎では狂言方だった女役も、美しい遊女を演じる女方となった。歌舞伎独特の女方の誕生である。村山左近・右近源左衛門がその初めと言われているが、いずれも京で人気を得て、江戸へ下った。源左衛門は、江戸下りの途中、名古屋の清寿院境内で、得意の「海道下り」を舞って評判となったと、「尾陽戯場事始(びようぎじょうことはじめ)」に記されて

《特集 秋の展示会》

いる。初々しい少年による若衆歌舞伎は、「業平躍」の歌詞がかなりエロチックで滑稽味があるように、男色を刺激する一面があった。若衆好きだった三代将軍徳川家光が死ぬと、江戸では、またまた風紀を乱すという理由で、承応元（1652）年若衆歌舞伎も禁止されてしまった。

＜野郎かぶき＞

その後、若衆の前髪を落とすことを条件に芝居の再会が許可され、野郎、すなわち月代（さかやき）を剃った一人前の男子が演じる、野郎歌舞伎が始まったとされている。若衆歌舞伎禁止後にも、若衆が舞台から消えたわけではなかったが、「歌舞伎おどり」の名称を避けて「芝居」とか「狂言尽くし」と呼ぶようになり、しだいに容色より技芸が強調されるようになった。荒事と和事といった歌舞伎の代表的演技が形成され、年齢や技芸によって受け持つ役柄の分担も生じ、技芸が発揮できる劇性の高い狂言へと比重が移っていった。お国歌舞伎以来の茶屋遊びのす劇に、能や浄瑠璃の筋立てを取り込んで劇性を広げ、歌舞伎独特の複雑な劇構成の「続き狂言」を生み出したのである。

＜傾城買狂言＞

まず、もてはやされたのが、遊里の太夫を女方、茶屋通いの男を立役、遣り手を花車方・茶屋の主人を道化方が演じた、「島原」と呼ばれる傾城買狂言であった。これを演じて名声を博したのが、初代坂田藤十郎。藤十郎は京の都万太夫座で活躍していたが、延宝六（1678）年二月大坂に下って、『夕霧名残正月（ゆうぎりなごりのしょうがつ）』を演じた。この年正月六日病没した大坂新町扇屋の遊女夕霧の追善として仕組まれ、藤十郎扮する藤屋伊左衛門が、勘当されて零落した紙衣（かみこ）姿で、扇屋の夕霧に逢いにくるというものであった。これは今も『廓文章（くるわぶんしょう）』として残っているが、夕霧に逢った伊左衛門が、ひがんだりすねたりして口説する傾城事は大当りし、若くてハンサム、善人で上品だが頼りない、周りがつい放っておけない、といったやさ男の典型が作り上げられ、上方の和事芸が形成されていったのである。

＜和事＞

元禄になると、歌舞伎の狂言もしだいに長編化し、お家騒動を扱った狂言が盛んとなったが、近松門左衛門が藤十郎のために書いた『けいせい仏の原』は、その代表作である。この狂言にも、たいてい、主人公が身をやつて廓に通う場面が仕組まれ、傾城買狂言を取り込んだ和事芸の見せ場があった。また、近松の描く世話浄瑠璃の男主人公もそれと同質のものだったから、どれも歌舞伎に取り込まれると、そのまま上方和事の代表作品になった。上方では、土地の人々の生活を写実的に描いて、濃やかな人情や洒落た行為を見せるものが好まれたが、和事芸はそれに似つかわしい芸であった。その後、東西の歌舞伎の交流が大きくなり、江戸の町も落ち着いた頃になると、江戸の歌舞伎でも、上方とは一味違った江戸和事が行われるようになった。

＜荒事＞

一方、関東という土地の荒々しい気風を背景とする江戸では、荒事芸が歌舞伎を代表する芸となった。隈取をした顔、綿を入れた大きな衣裳に三本太刀を佩いて、六方を踏み、つらねを言って、寄せくる者を蹴散らして見得を切る。この荒事の演技は、荒人神の超人的力を表現したものであった。荒事の派手で荒々しい恰好や独特の言葉は、江戸の初め頃、暴れ者の旗本奴が丹前風呂に通う伊達な姿を取り入れたものだという。当時もっとも有名な湯女風呂が神田佐柄木町の堀丹後守の屋敷の前にあったので、湯女風呂のことを「丹前風呂」といったのである。また、寛文の頃の江戸では、金平（きんぴら）浄瑠璃が流行した。この浄瑠璃の主人公金平たちは、明るく豪快で超人的力を発揮して悪を蹴散らす半面、単純で童話的稚気があって、まことに痛快だった。荒事の超人的パワーの表現は、この金平浄瑠璃に学んだものであった。荒事が「七・八歳の子供の心で演じよ」「くくり猿のように体を丸くして演じよ」と言われるのはこのためである。

近代以前の人々は、祭り崇める人々には祝福をもたらすが、そうでない者には容赦なく祟るという御霊神の存在を信じていた。特に、非業の死を遂げた人物は、霊異を獲得して荒人神となり、すぎましい力を発揮した。世の中には、さまざまの悪や物怪が跳梁しており、こうした恐ろしい力と対抗するためには、超能力を身につけたスーパーマンの登場を願わざるを得ない。荒事の主人公たちはこの民衆の願いを舞台に顕現したものであったのである。荒事の代表作『暫（しばらく）』の主人公は鎌倉権五郎、『矢の根』は曾我五郎という。いずれも「五郎」と呼ばれるのは、「ごろう」が「御霊（ごりょう）」に通じる名だからであり、御霊信仰と荒事との関係をよく現している。

《特集 秋の展示会》

＜市川団十郎＞

このように、荒事は江戸の民衆の心や生活と深く結びついて成った。その中心にあったのが市川団十郎であった。初代団十郎は、武田武士だった下絵の郷土堀越重蔵の子であった。重蔵は江戸に出て侠客と交わり、「面疵の重蔵」と呼ばれた顔役だったという。初代団十郎は、通説では、延宝元（1673）年、十四歳で中村座の初舞台を踏み、『四天王稚立（してんのうおさなだち）』の坂田金時を演じた。これが荒事の始まりと言われている。初代団十郎は成田不動尊を信仰し、自ら劇作も手掛けて、「五郎」を演じたり、荒人神や不動明王・龍神となって神霊事を見せて、江戸の人々を魅了したのである。

＜丸本かぶき＞

享保から宝暦にかけては、大坂を中心に人形浄瑠璃が全盛期を迎え、歌舞伎を圧倒した。享保二（1618）年五月、近松門左衛門の『国性爺合戦（こくせんやかっせん）』が歌舞伎に移されて大当たりをとると、人形浄瑠璃で評判をとった作品はすぐに歌舞伎に移されるのが通例となり、義太夫に基づくという特性を活かした演出も工夫されて、丸本物と呼ばれる作品群が生まれた。丸本物には、『仮名手本忠臣蔵（かなでほんちゅうしんぐら）』『義経千本桜（よしつねせんほんさくら）』など、今も人気の作品が多い。

＜生世話狂言＞

明和から天明ころになると、歌舞伎は再び人気を取り戻した。この頃から、上方の作者並木五瓶の江戸に象徴されるように、上方風が江戸歌舞伎に大きな影響を与え、劇舞踊が発達し、写実的演技や演出が重んじられるようになった。化政期になると、江戸歌舞伎の特徴であった「絢交ぜ（ないませ）」の手法に、写実を組み合わせ、「生世話（きぜわ）」と呼ばれる独特の形式を生み出した。これを得意としたのが四世鶴屋南北であった。南北は、したたかな庶民の生き様を劇的に描き、また、残酷・怪奇な場面を大胆に舞台化して、見世物的魅力をも発揮した。文化（1804）頃から、一人の役者が、立役から女方まで演じるようになって、変化舞踊が流行した。一人で多彩な役柄を、長唄・義太夫・豊後系浄瑠璃に乗せて、早替りや引き抜きなどを用いて、スピーディに演じた。



＜江戸歌舞伎の終焉＞

江戸時代、大歌舞伎というのは、幕府から許可を得た常設の小屋での歌舞伎を言った。江戸時代の初めまでは、芸能の興行は、権力者や寺社の保護を求めることが多かったが、比較的に行うことが出来た。しかし、江戸幕府は悪所と呼ばれた芝居や遊廓を厳しく管理するようになり、芝居の興行は許可制となった。京では元和（1615～24）の頃、七カ所の櫓が許されたが、元禄の頃には、京・大坂・江戸三都にそれぞれ四カ所となっていた。京・大坂で幕末まで続いたのは、京四条北側と南側の二座、大坂道頓堀中の芝居と角の芝居の二座であった。江戸の四劇場は、中村座・市村座・山村座・森田座という四座で、堺町・葺屋町・木挽町で興行していたが、正徳四（1714）年、江島生島事件で山村座が興行権を失い、江戸は三座となった。天保十二（1841）十月、堺町の中村座と葺屋町の市村座が焼失したのを機に、三座は浅草猿若町に強制移転させられた。ここでの興行は、明治五（1872）年守田座が新富町に移るまで続いたが、この幕末期、世話物を中心に魅力的な作品を書いたのが、河竹黙阿弥であった。美しいせりふを駆使して、官能的で粋な生世話の世界を作り出した。

明治になると、文明開化・近代化の名のもとに、演技や演出にも変更が加えられ、新歌舞伎も世に出されたが、江戸歌舞伎の本来の姿は大きく変質してしまうこととなった。

〈BOOKS in ライブラリアンズ・ハート〉



私だけの宝

「じゃあ読んでみようね。」今にも飛び出しそうな心臓を抑えつつ、生徒達に声をかけた。手元には4枚のプリント、昨夜徹夜で作り上げたばかりのものだ。こちらを凝視する教務主任の視線を深呼吸とともにゴクリと飲み込んだ後、私はゆっくりと朗読を始めた。タイトルは「文字を書くよろこび」、「かぎりなくやさしい花々」からの抜粋である。

星野富弘氏のエッセイを道徳教材に取り入れようと思いついたのは、給食時に生徒と交わしたある会話が始まりだった。「ねえ、藤井君は将来どんな職業につきたいと思う?」「え、別に。普通のサラリーマンかな。」教育実習にもようやく慣れ生徒と気軽に話が出来ようになった頃、半ば期待を込めて投げかけた問いに、彼はカレーをすくう手も休めずにこう言ったのだった。東京に勤めるサラリーマン家庭のベッドタウンとして急成長したこの町。似たような中流家庭に育った、似たような「中流」の理想を持つ子供達、そんなふうに分りきってしまうのは、いつも元気過ぎるほど元気で無邪気な中学一年生の彼らには余りにも寂し過ぎた。密かに内に秘めた自分だけの宝、価値とは? あの時の会話が何日たっても頭の中で回り続けながら、彼らが持つそれを引き出してみたい欲求にかられていた。

星野氏の詩画に再会したのはその時である。昔誕生日にもらった作品集を偶然本屋の棚に見つけた時、これだ、と思った。「一本の茎が一本の棒を登っていく 棒の先には夏の空 私も あんなふうに登って行きたい」朝顔の絵と共に綴られたこの言葉には、手足の自由を失う絶望に見舞われた氏が、その後絵筆を通じ自ら得た自身の宝への喜びと、希望にあふれていた。私はすぐにプリント作りにとりかかった。研究授業は、もう二日後にせまっていた……。あれからもう一年が過ぎようとしている。今夏は植物の育ちが悪いようだけれど、生徒たちの胸には今頃、美しい朝顔が咲いていてくれるだろうか。

(整理係:中村恭子)



「やっぱり電車の中では文庫本のカバーははずせない……」というあなたへ

私の友人に人の本棚を見ると、その人の半分はわかったような気になるといったのがある。悪趣味極まりないと思ったが、棚に並んだ本というのは何かに語りかけてくるものらしい。ちなみに、私は他人の本棚を見ると、その人が置いてある本の内容をすべて持っている人のような気がし、ちょっぴりビビってしまう。そして図書館のような膨大な量の本のあるところでは落ち着きがなくなり、本屋に行くとは何かトイレに行きたくなる。

そんな私がリラックスできる相手は文庫本だ。「こっこんなに楽しませてもらって数百円でいいんすか? ありがたいことだ、なんまいだぶ なんまいだぶ……」という気になってしまう。で、思い出の本を一冊、というと中公文庫の「どくとるマンボウ青春記」(北杜夫著)。幕の内弁当みたいにいろいろなものがつままって、パッとテキトーに開けてどこから読んでも楽しめる。あなたが大学生なら、そうでない方よりもっと楽しめる。ちなみにこの本を選んだのは、思い出もなにも、単に好きになった男が持っていたというだけのことだ。いや、好きになるというより、本棚を前にしたときのようにビビってしまい、恋愛感情をすっ飛ばして尊敬の域に達してしまった。

あれから、あの時のような男にも、「どくとる……」のような文庫にもなかなかめぐり逢わないが、今日も私は本棚の前をウロウロし、トイレに行きたくなっちゃったりしている。

(整理係:野村千里)

〈伝言板〉



図書館利用講習会のお知らせ

図書館では恒例になりました利用講習会を今秋も開催いたします。春の講習会を受講しようとして機会を逃した方、来年に卒業論文を控えている方、試験やレポートの度に資料の探し方で困っている方、是非この機会をご利用下さい。利用講習会は毎週水曜日の午後1時から60分間、3つの講習会の何れかを開催します。詳しい日程は巻末のライブラリーカレンダーをご覧ください。申込みの受付はレファレンスカウンターで行なっています。また、どうしても受講日の都合がつかない方はご相談下さい。

GEMMA利用講習会

南山大学に所蔵されている資料を探すために必要不可欠なコンピュータ目録"GEMMA"の操作実習を中心とした講習会です。キーボードを一度も触ったことのない方でも大丈夫。キーの位置や、画面の流れ、検索方法など懇切丁寧にご指導いたします。

"GEMMA"が使えなくて今まで書棚の間をあてもなくウロウロとしていた君たちも、「おまえ"GEMMA"使えるの?いいなあ・・・」と言っていた君たちも、この機会を逃さず受講されてはいかがですか。

文献探索講習会

A: 卒論の資料あつめたー?

B: 全然あつまないよ、どうやって探していいんだかよく分からないんだ

A: 私も随分調べたんだけど、イマイチの資料ばかりで・・・

と、いった会話が毎年のように聞こえてきます。そんな皆さんの悩みを少しでも解決してあげることができる、それが文献探索講習会です。文献の探し方を具体的に紹介したり、役立つ資料の使い方などの説明を中心に講義を行ないます。卒論の為に着々と準備を進めておきたい3年生や土壇場で慌てる4年生だけでなく、大学生としての学習意欲に燃える1・2年生の方の受講もお待ちしております。

ライブラリーツアー

図書館のどこにどんな資料があるのか知っていて、なおかつ色々な利用方法を知っている。これは大変にお得なことだとは思いませんか。新着雑誌や外国新聞の配置、書庫内の資料の配置、グループ閲覧室の利用法、本の予約、学生用希望図書etc. 知らないこといっぱいありませんか。図書館内をぐるっと案内しながら、利用の方法をご説明いたします。

ライブラリーカレンダー
1993.10 ~ 1993.12

| 10 月 | | | | 11 月 | | | | 12 月 | | | |
|-------|------|------|----|-------|--------|------|----|-------|-------|------|----|
| 9:00 | 6:00 | 8:00 | | 9:00 | 6:00 | 8:00 | | 9:00 | 6:00 | 8:00 | |
| | 6:30 | 書 | 利用 | | 6:30 | 書 | 利用 | | 6:30 | 書 | 利用 |
| 1(金) | | | | 1(月) | 4:30 | ★ | | 1(水) | | | G |
| 2(土) | | ★ | | 2(火) | 4:30 | | | 2(木) | | | ★ |
| 3(日) | | | | 3(水) | 文化の日 | | | 3(金) | | | |
| 4(月) | | ★ | | 4(木) | | ★ | | 4(土) | | | ★ |
| 5(火) | | | | 5(金) | | | | 5(日) | | | |
| 6(水) | | | 文 | 6(土) | | ★ | | 6(月) | | | ★ |
| 7(木) | | ★ | | 7(日) | | | | 7(火) | | | |
| 8(金) | | | | 8(月) | | ★ | | 8(水) | | | ツ |
| 9(土) | | ★ | | 9(火) | | | | 9(木) | | | ★ |
| 10(日) | 体育の日 | | | 10(水) | | | 文 | 10(金) | | | |
| 11(月) | 振替休日 | | | 11(木) | | ★ | | 11(土) | | | ★ |
| 12(火) | | | G | 12(金) | | | | 12(日) | | | |
| 13(水) | | | | 13(土) | | ★ | | 13(月) | | | ★ |
| 14(木) | | ★ | | 14(日) | | | | 14(火) | | | |
| 15(金) | | | | 15(月) | | ★ | | 15(水) | | | G |
| 16(土) | | ★ | | 16(火) | | | | 16(木) | | | ★ |
| 17(日) | | | | 17(水) | | | G | 17(金) | | | |
| 18(月) | | ★ | | 18(木) | | ★ | | 18(土) | | | ★ |
| 19(火) | | | | 19(金) | | | | 19(日) | | | |
| 20(水) | | | 文 | 20(土) | | ★ | | 20(月) | | | ★ |
| 21(木) | | ★ | | 21(日) | | | | 21(火) | | | |
| 22(金) | | | | 22(月) | | ★ | | 22(水) | 4:00 | | |
| 23(土) | | ★ | | 23(火) | 勤労感謝の日 | | | 23(木) | 天皇誕生日 | | |
| 24(日) | | | | 24(水) | | | 文 | 24(金) | | | |
| 25(月) | | ★ | | 25(木) | | ★ | | 25(土) | | | |
| 26(火) | | | | 26(金) | | | | 26(日) | | | |
| 27(水) | | | ツ | 27(土) | | ★ | | 27(月) | 4:30 | | ★ |
| 28(木) | | ★ | | 28(日) | | | | 28(火) | | | |
| 29(金) | | | | 29(月) | | ★ | | 29(水) | | | |
| 30(土) | | ★ | | 30(火) | | | | 30(木) | | | |
| 31(日) | | | | | | | | 31(金) | | | |

■ : 開館時間 書 : 3・4年次生書庫入庫日(月・木曜pm 1:00~4:30、土曜am 9:00~11:30)
 利用 : 図書館利用講習会 G:GEMMA講習会 文:文献探索講習会
 ツ:ライブラリーツアー

《編集後記》

読書、芸術、スポーツ、食欲…の秋。
 好奇心旺盛にして秋をまるごと
 食べてしまおう!!!

(M.G., M.Y., K.S.)

(タイトルデザイン:平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.19
 1993.10.1.発行

南山大学図書館 広報委員会
 編集委員:後藤、米田、諏佐
 〒466 名古屋市昭和区山里町18
 Tel. 052(832)3707
 Fax(G3) 052(833)6986